

学歴階層結合の日米比較

——東大社研パネル調査 (JLPS) データの分析 (1) ——

○東京大学社会科学研究所 石田浩
○東京大学社会科学研究所 茂木暁

1 目的

カップルの学歴階層結合 (男女の学歴組み合わせ) について検証する。最近の研究動向をふまえ、既婚カップルに加えて、未婚カップルに分析対象を拡張する。日本の特徴を明らかにするという観点から、同類婚だけでなく、女性から見た「ハイパガミー」 (男性の学歴が女性より高い) など他の学歴階層結合に注目し、米国との国際比較を行う。

2 方法

利用データ: 日本には、東京大学社会科学研究所実施のパネル調査である「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査 (Japanese Life Course Panel Survey, 以下 JLPS)」を利用する。米国には、米国保健社会福祉省・全米保健統計センター実施のクロスセクション調査である The National Survey of Family Growth の 2006~2010 年実施分 (NSFG) を利用する。**推定方法:** ログリニアモデルによって、(1)クロス表を出力、(2)様々なパラメータ設定を行って適合度比較によって採択モデルを得る。**変数:** 学歴カテゴリとして、日本は「高卒以下」「短大高専専門」「大卒以上」、米国は「high school graduate or less (「HS」)」「some college (「SC」)」「B.A. or more (「BA」)」を、配偶状態カテゴリとして<分析 1>で日本には【未婚】【既婚】、米国には【Unmarried】【Married】、<分析 2>では、日本は【交際継続】【交際解消】、米国は【Dating】【Cohabiting】を想定する。

3 結果

<分析 1> 日本について、男女「高卒以下」と男女「大卒以上」のホモガミーが【未婚】と【既婚】の両方で成立しやすくなるが、「大卒以上」は【既婚】の方が成立しやすい。また【既婚】でのみ男性「大卒以上」と女性「短大高専専門」のハイパガミーが成立しやすい。米国については、男女「HS」と男女「BA」のホモガミーが成立しやすいが、日本とは異なり【Unmarried】と【Married】とで学歴階層結合のパターンや強さに違いはない。<分析 2> 日本では、【交際継続】と【交際解消】の両方で、「高卒以下」と「大卒以上」それぞれのホモガミーが成立しやすい。米国では【分析 1】のモデルと同じ学歴階層結合のパターンなので、【Dating】と【Cohabiting】との違いを uniform difference パラメータで捉えるモデルが採択されたため、学歴階層結合の強さについては【Dating】と【Cohabiting】とで違いがあるが、パターンについては<分析 1>と同様となる。

4 結論

本報告では、未婚カップルと既婚カップルの学歴階層結合に関する日米比較を行った。その結果、日本では、交際から結婚への移行が連続的な移行になりにくいこと、そして交際相手と結婚相手とを区別するというかたちで、パートナー選択の基準が異なる傾向があることの2点が明らかになった。

【謝辞】

本研究は、科学研究費補助金基盤研究 (S) (18103003, 22223005) の助成を受けたものである。東京大学社会科学研究所パネル調査の実施にあたっては、社会科学研究所研究資金、株式会社アウトソーシングからの奨学寄付金を受けた。パネル調査データの使用にあたっては社会科学研究所パネル調査企画委員会の許可を受けた。